子ども・若者等の意見を聴く取組の実施結果及びフィードバック

神奈川県　福祉子どもみらい局
子どもみらい部　次世代育成課

令和７年３月

結果のまとめ（聴取全体の取組）

子ども・若者のみなさん、子育て当事者のみなさんを始め、400件以上の意見をいただきました。

項目	延べ件数
県インターンシップに参加した大学生	38
医療的ケア児に係る有志団体	5
放課後居場所カフェNPO法人	5
クリエイティブスクールに通う高校生	9
子ども目線会議に参加した高校生	15
保育会	46
子ども・若者施策審議会当事者委員	4
外国にルーツを持つ小学生	8
子ども食堂を利用する子どもとその保護者	27
放課後児童クラブを利用する子ども	34
県インターンシップに参加した高校生	8
子育て支援拠点を利用する子育て当事者	3
その他	230
計	432件

結果のまとめ方

いただいた意見

似た意見をまとめて、対応結果ごとに分類しました。

- 実施に向けて取り組んでいくもの
- 既に取り組んでいるもの
- 今後の取組の参考とするもの

分類したものごとに、次のように記載しています。

実施に向けて取り組んでいきます。

☞どのように取り組んでいくのか、方向性を書きました。

既に取り組んでいます。

今後、取組を考えるための参考にします。

※　計画に位置づいている事業は該当ページを書きました。

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（多様な体験等）

・近所の公園は、ボールが使用できない。
・花火ができる場所がほしい。

・もっと公園を増やしたい
・ブランコ、雲梯など公園の遊具が増えてほしい

フィードバック

既に取り組んでいます

県立都市公園などを活用して、プレイパークを運営している団体が、子ども達が自由な発想で冒険的な遊びなどができるよう、場の提供を行います。（p.46）

＜関連情報＞

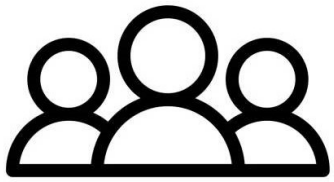
既に取り組んでいます

県立都市公園では、広い芝生広場や大きな遊具がある広場など、小学生の方が、身体を思いきり動かせるフィールドをたくさん用意しています。

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見（多様な体験等）

一般校と特別支援学校との交流には、校内のバリアフリー設備を充実させる必要がある。資金面の問題点を県がクラウドファンディングにより補うことはできないか。



中休み、昼休みに校庭でサッカーができるようにしてほしい。

フィードバック

既に取り組んでいます

県では、これまで車いす対応トイレの整備などに取り組んできました。（p.47）
クラウドファンディングは、県の個別の取組を広く発信できるといった効果もありますので、参考とさせていただきます。

今後、取組を考えるための参考にします。

校庭での遊び方については、学校でルールとして決められています。サッカーボールが人に当たって、けがをさせる可能性もあります。
どうしたら校庭で安全にサッカーができるか、先生たちと話し合いをしてみてもよいかもしれません。

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見（多様な体験等）	フィードバック
学校には、もっと子どもが読みたくなるような本を増やして欲しい。	**今後、取組を考えるための参考にします。** みなさんが読みたくなる魅力的な本を提供できるよう、興味や関心に合った作品や物語を選んでいますので、みなさんからもどんな本が図書室にあるとよいか意見をいただけるとうれしいです。
遊園地やレジャー施設が増えてほしい。	**今後、取組を考えるための参考にします。** 県が運営するウェブサイト「パパノミカタ」では、家族で一緒に楽しめる県内のお出かけスポットの情報を掲載しています。新しいスポットに出会えるかもしれないので、ぜひ参考にしてみてください。（p.138）

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（貧困対策）

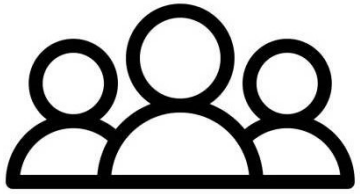
・低所得世帯への支援制度を拡充して欲しい。

・貧富の差をなくして欲しい。

・成績が悪いと奨学金がもらえないが、成績要件を緩和して欲しい。

・大学の学費が高い。

・留学がしたいが、奨学金を借りていると、留学先の選択肢が限られる。



フィードバック

既に取り組んでいます

県では、生活保護に至っていないものの、生活に苦しむ方に対し、住まいや就労等の支援を行い、自立へのサポートを行っています。（p.62）

NPO等が実施する社会に巣立つために必要な費用の支援（大学等の受験費用等）や寄り添い支援（進学後の住まい確保等）に対し補助するとともに、生活困窮世帯の子どもに体験活動の機会を提供するなど支援の拡充に取り組んでいます。（p.61）

＜関連情報＞ 神奈川県 かながわつばさプロジェクト 子ども・若者たちの社会への巣立ちを応援します

県の奨学金は、成績要件を設けていませんので、成績に関わらず奨学金を借りることができます。（最大貸付月額：国公立3万円　私立5万円）（p.60）

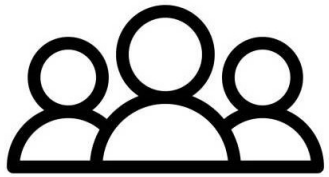
県の奨学金以外にも、住んでいる自治体や民間団体に、成績要件があるもの、返還の必要ないもの等、様々な制度があるので、奨学金担当の先生に相談して、御自分に合った制度を活用してください。

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（障害児支援・医療的ケア児等への支援）

障害のある人とか色んな人がいて、コミュニケーションをとれる居場所があるといい。



障害を持つ方と一緒にいる時間を作り関わっていくことでお互いの理解が深まっていくのではないか。

フィードバック

実施に向けて取り組んでいきます。

県では、障害があってもなくても、誰もが一緒に交流をしたり、楽しむことができるイベントを行っています。
これからも、そうしたコミュニケーションがとれる機会を作っていきます。

＜関連情報＞

実施に向けて取り組んでいきます。

県では、すべての子どもが幼いうちから、同じ地域に住む仲間として、みんなが一緒に遊んだり、学校に入って一緒に勉強したりできるよう、インクルーシブ教育を進めています。（p.69）

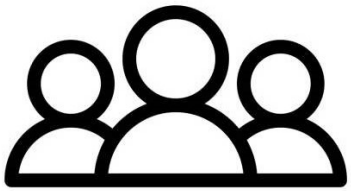
これからどんな学校にしていけば、分からないことや困ったことがあっても、一緒に学んでいけるか、また、どうしたらみんなが行きたいと思う学校になるのか、県内の色々な人達と話し合っています。皆さんも話し合いに参加して、ぜひ意見を言ってください。

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（障害児支援・医療的ケア児等への支援）

特別支援学校と通常学校との交流の機会を制定してはどうか。



小さいころから障害者と触れ合う機会があまりない。

フィードバック

既に取り組んでいます

県立特別支援学校と高等学校等の交流として「学校間交流」を各学校の実情に応じて実施しております。今後も各学校が相互理解の観点から交流及び行動学習として「学校間交流」に取り組んでいきます。（p.69）

既に取り組んでいます

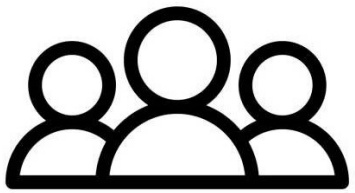
障害のある方が県内の小学校、中学校、高校に行って、児童・生徒と交流できる出前授業の取組を進めています。
今後も障害のある方との対話や交流の場を作って行きます。

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（障害児支援・医療的ケア児等への支援）

インクルーシブ教育は、一部の障害が軽度な人しか受けられないのではないか。特別支援学校の方がいいという意見が多くある。
どちらも並行できないか。



フィードバック

今後、取組を考えるための参考にします。

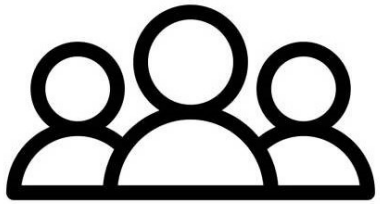
大切な事は、どの学校へ行っても、一人ひとりの子どもが大切にされ、学校でしか学べないことを学んでいくことだと思います。
インクルーシブ教育は特定の誰かではなく全ての子どもを対象としています。
皆さんにインクルーシブ教育について考えてもらえるよう、今後も取り組んでいきます。

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（社会的養護）

高校を卒業したら、児童養護施設を出なければならない。施設を出た後は進学の費用等が不安



フィードバック

既に取り組んでいます

児童養護施設や里親家庭等で育ち、自立しなければならない方などの進学時のお金の負担を減らすため、大学、短期大学、専門学校等へ入学する際の入学金、授業料などを支援しています。（p.75）

＜関連情報＞

神奈川県

かながわ
つばさプロジェクト

子ども・若者たちの社会への巣立ちを応援します

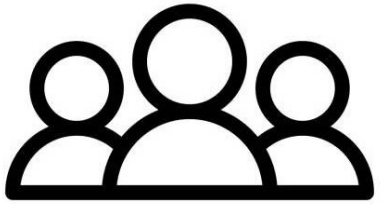
大学等に通いやすくすることを目的として、大学等への入学後の生活費を1年間支援する補助金があります。（p.74）

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（子ども・若者を守る取組）

駅前の路上喫煙が多くて困る。



駅前を自転車で通るとき、交通マナーの悪い人が多くて危険を感じることがある。

フィードバック

既に取り組んでいます

県では、駅前のような多くの人が利用する場所や公園などの屋外でも、たばこの煙を吸いたくないと思っている人にたばこの煙を吸わせないよう気配りができる社会づくりを進めていきます。

＜関連情報＞

既に取り組んでいます

警察は、危険な運転を見かけたら、取締りを行っていますが、みなさんも安全運転を心がけることが大切です。これからも、交通ルールを守り、気を付けて自転車に乗りましょう。

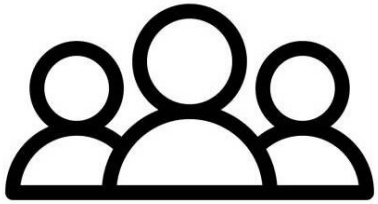
＜関連情報＞

ライフステージを通した重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（子ども・若者を守る取組）

子どものSNS関係のトラブルが多い。SNSの使い方を適切に管理することが大切。



自分のスマホがあるとより便利だと思う。スマホを持っていない今は、友だちと予め約束しないと遊べない。

フィードバック

既に取り組んでいます

県では、保護者の方にお子さんのスマートフォンの利用を見守る必要性について、学校を通じて呼びかけるとともに、インターネットやSNSにひそむ危険を知り、親子で適切な使い方を学んでもらえるようホームページでも動画や関連する情報などを紹介しています。（p.79）

＜関連情報＞

今後、取組を考えるための参考にします。

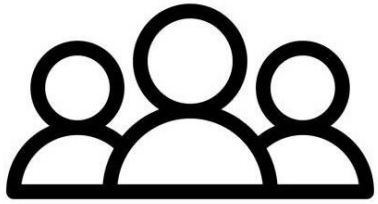
スマホを持つことで悪い人とつながってしまったり、犯罪に巻き込まれてしまうこともあります。
ぜひ、ご家族の方とスマホが欲しい理由や、正しい使い方を話し合ってみてください。

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（切れ目のない保健・医療の確保）

親としての責任に耐えられる自身がない。



・親の出産の話を聞くと、大変なイメージがあり、痛み等が不安。

・無痛分娩が無償になるといい。

フィードバック

既に取り組んでいます

保育所等を利用していないご家庭でも、子どもを保育所等に一時的に預けることができる取組があります。また、地域子育て支援センターでは、保護者の孤独感や不安感を和らげるため、親子が気軽に集まり、子育ての相談等ができます。

実施に向けて取り組んでいきます。

現在、国では、出産の経済的負担を減らすため、正常分娩を健康保険の対象にできないか検討を進めている段階ですので、無痛分娩の無償化について、すぐに実現するのは難しいかもしれません。
国の議論を見守りながら、出産の不安を解消するために県として何ができるのか考えていきます。

＜関連情報＞

妊娠・出産・子育てに関する情報

妊娠中から子育て期までの相談窓口、健康診断、保健サービスについてご紹介します。

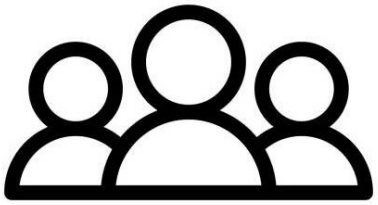
ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（質の高い公教育の再生等）

・個々の学習の理解度・スピードに合うように、マンツーマン（先生と児童生徒の一対一）で教えてほしい。

・分かっている内容はもういいから、次の勉強がしたい。



学校の勉強がつまらない。ゲーム感覚で楽しんで授業を受けられるといい。

フィードバック

既に取り組んでいます

授業中に早く問題を解き終えた人には、より深い学習が進められるよう、学習用のタブレットを活用するなど、みなさんの興味や関心を引き出して、学習に活かせるような工夫をこれからも行っていきます。

既に取り組んでいます

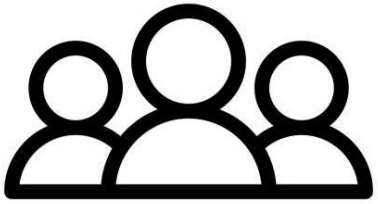
学校の勉強は、みなさんと先生が一緒につくるものですから、勉強を楽しく身近なものにするにはどうすればよいかを先生と一緒に考えてみましょう。
授業中に積極的に発言することも、より楽しく学ぶキーポイントです。学びを一緒につくるという気持ちで楽しみましょう。

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（質の高い公教育の再生等）

学校ではもっと算数とか外国語を簡単にしてほしい。



クラスによってルールが違うから全部一緒にしてほしい。

フィードバック

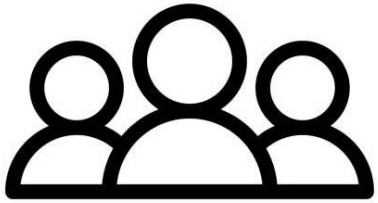
既に取り組んでいます

算数や外国語は、難しいこともありますが、先生方は、みなさん一人ひとりの学習の状況に適した指導を心がけています。難しく感じることもあると思いますが、毎日少しずつ学習を積み重ねることで、だんだんと理解が進み、楽しくなってくると思います。

今後、取組を考えるための参考にします。

なぜクラスによって違うのか、理由を先生に聞いてみるのはどうでしょう。また、「迷ってしまうからルールを一緒にできないか」と相談をしてみるのもいいかもしれません。

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

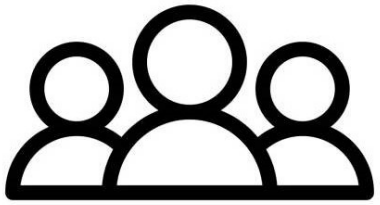
いただいた意見 （質の高い公教育の再生等）	フィードバック
タブレットの授業の時間を増やしてほしい。	**今後、取組を考えるための参考にします。** 授業中の学習用のタブレットの使用については、先生によって決められています。どうしたらより効果的に学習用のタブレットを活用できるか、気づいたことがあれば先生に相談してみましょう。
 ・夏、春冬休みをあと少し長くしてほしい! ・夏休みがほんのちょっと長い。	**今後、取組を考えるための参考にします。** 公立小学校の夏休みや冬休みの期間については、みなさんの授業の時間をしっかりと確保できるよう市町村の教育委員会によって決められています。 新学期からまた元気に学校に通えるよう、お休みの間はそのときだからこそできることをして過ごしてほしいと思います。

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（質の高い公教育の再生等）

夏は、校庭での授業をやめてほしい。



・プールをきれいにしてほしい。
・プールの水温を上げてほしい。

フィードバック

今後、取組を考えるための参考にします。

学校では毎日暑さ指数（WBGT）を測るようにしています。暑さ指数が31℃以上になると運動は原則中止となりますが、それ未満の時は注意しながら校庭でも教室でも授業をしています。
少しでも体調に不安を感じたら、すぐに先生に相談をするようにしましょう。

今後、取組を考えるための参考にします。

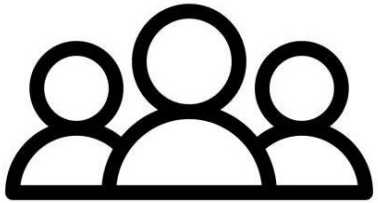
水の温度が低いと体への負担もかかります。プールの掃除や水の温度については、文部科学省の「水泳指導の手引」にも書かれていますが、基本的には先生たちが管理や確認をしています。
気が付いたことがあったら、先生に相談してみましょう。

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（質の高い公教育の再生等）

授業が長いので1時間を30分にして、授業数を増やしてほしい。



夏休みと冬休みの宿題が多い。

フィードバック

今後、取組を考えるための参考にします。

小学校の授業時間の長さについては、みなさんが集中して学習に取り組める時間として、国によって45分と示されています。
学習に集中するには、どうすればよいかを先生と一緒に考えてみましょう。

今後、取組を考えるための参考にします。

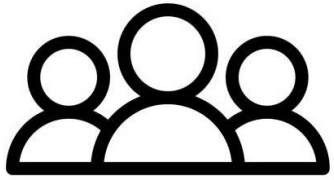
宿題が多いと大変ですが、宿題に取り組むことで、新しい知識が増え、今まで分からなかったことが分かるようになると思います。お休みの中で時間をつくって、少しずつ取り組むことで、新たな気づきがあるかもしれません。

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（居場所づくり）

勉強する場所がほしい。学校の自習室だと息が詰まるし、図書館は人が多くて席が空いていない。



・学生の時、部活が居場所だったが、部活で嫌なことがあると、家に帰りたくない時他に居場所がなかった。

・学生時代は塾が居場所だったが、通っていない人は話に入れなくなる。

フィードバック

既に取り組んでいます

県では、子ども・子育て総合情報サイト「子育て支援情報サービスかながわ」を運営しており、市町村ごとに地域の中の学習支援や居場所などの情報を探すことができます。（p.146）

実施に向けて取り組んでいきます。

県立高等学校や県内の市立高等学校の中には、NPO法人と連携して、生徒の皆さんが安心して過ごせる校内の居場所を提供する「校内居場所カフェ」の取組を行っています。（p.106）

＜関連情報＞

神奈川県生活困りごとサポートサイト「さぽなびかながわ」

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（成年年齢を迎える前に必要となる
知識に関する情報提供や教育）

親が共働きで育児に苦労している姿を見てきた。仕事も子育ても体力が必要なので、体力的にしっかりと子どもに目が行き届くうちに生みたい。

フィードバック

既に取り組んでいます

県では、若い世代が結婚、子育て、仕事を含めた将来のライフデザインを希望を持って描くことができるよう、将来のライフイベントについて考える機会を設ける「若い世代向けのライフデザインセミナー」を開催しています。

＜関連情報＞

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（いじめ防止）

いじめにあった際、誰にも相談できずにつらかった。いじめ対策はあるのか。

フィードバック

既に取り組んでいます

教員以外にも相談できるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、相談できる体制づくりや「中高生SNS相談＠かながわ」や「24時間子どもSOSダイヤル」など、外部の相談窓口を開設しています。（p.117）

＜関連情報＞

各県立高校ではいじめアンケートや「かながわ子どもサポートドック」等の回答結果により、プッシュ型面談を行うなど、いじめを積極的に認知する取組を行っています。（p.114、117）

ライフステージ別の重要事項についていただいた意見

いただいた意見

（不登校の子どもへの支援）

ソーシャルワーカーへの相談機会を増やして欲しい。また、SNS相談の混雑を解消して欲しい。話を聞いて欲しいときに利用できない。

フィードバック

既に取り組んでいます

令和5年度からソーシャルワーカーを大幅に増員しましたが、ソーシャルワーカーがいない時は、担任の先生や養護教諭など、身近にいる信頼できる先生にぜひ相談してください。

「中高生SNS相談＠かながわ」が混雑している場合には、皆さんに周知している「24時間子どもSOSダイヤル」などに相談してみてください。（p.117）
なお、SNS相談で対応できなかった相談者に対しては、個別のお声がけ相談を実施しており、なるべく多くの相談者に対応できるよう努めています。

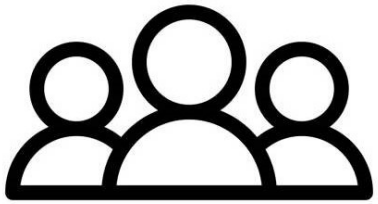
＜関連情報＞

子育て当事者の不安解消のための施策についていただいた意見

いただいた意見

（子育てや教育に関する経済的負担等の軽減）

年収の関係で受給できない手当もあった。所得制限がなく、高校無償化等の手当を幅広く受けられるようになったら子どもを持ちたい。



お金が必要だが、扶養の制限があるのでアルバイトも難しい。

フィードバック

実施に向けて取り組んでいきます。

公立高校の授業料については、年収約910万円未満の世帯には、国の就学支援金を活用して、無償化しています。（p.58）

私立学校については、令和6年度より、私立高校の授業料の実質無償化について、年収制限を引き上げるなど、教育費負担の特に大きい多子世帯への支援を充実させました。

所得制限をなくすには、多額の財源が必要であり、県単独では難しいため、他の都道府県とも連携し、国に強く要望していきます。

既に取り組んでいます

パートやアルバイトの方が年金や健康保険において扶養の範囲から外れてしまう、いわゆる「年収の壁」を意識せずに働けるよう、国では制度の見直しを図っています。引き続き、働きやすい環境づくりに努めていきます。

＜関連情報＞

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

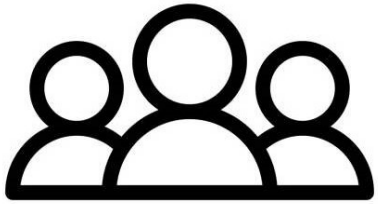
子育て当事者の不安解消のための施策についていただいた意見

いただいた意見

（子育てや教育に関する経済的負担等の軽減）

・子どもは持ちたいが、お金がかかる。子どもを大きくなるまで育てられるか、イライラすることもあると思うのでメンタル面では不安。

・収入面で余裕が出てきたときには、子どもをあきらめる年齢になっていそう。



フィードバック

既に取り組んでいます

子育てのかかるお金の負担を減らすため、出産一時金（50万円）や児童手当（3歳未満は月額15,000円）などの給付や、保育所・医療費の無償化など、さまざまな取組をしています。（p.132）
今年から、児童手当も高校卒業までもらえるようになり、高校・専門学校の授業料等の補助もあります。

子育てでイライラした時には、保育所の一時預かりを利用してリフレッシュする仕組みがあります。また、LINEを活用した「子育てパーソナルサポート」では、専門家に相談できる機能もあります。（p.145）

子育て当事者の不安解消のための施策についていただいた意見

いただいた意見

（子育てや教育に関する経済的負担等の軽減）

ミルクの費用を安くして欲しい。赤ちゃんにとって必須のもの。必須用品が安くなるだけで費用が抑えられる。

共働き・共育ての推進等

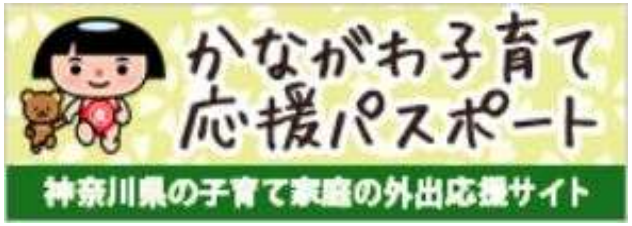
お父さんの帰りがいつも遅い。早く帰ってきてほしい。

フィードバック

既に取り組んでいます

ミルクの価格は企業で決めていて、価格を下げること自体は難しいですが、県では、協力施設にて「かながわ子育て応援パスポート」を見せると、お得な特典や子育て家庭にやさしいサービスが受けることができ、子育て家庭を応援する取組を進めております。（p.146）

＜関連情報＞



既に取り組んでいます

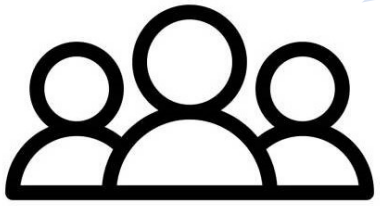
県では、子どもがいる人を雇っている会社が、お休みを取りやすくしたり、働く時間を短くしたりした場合、子育てを応援する会社であると県が認め、皆さんに広くお知らせする取組をしています。1つでも多くの会社が仕事と子育てを両立できるよう取組を進めていきます。（p.146）

子育て当事者の不安解消のための施策についていただいた意見

いただいた意見

共働き・共育ての推進等

家のことはほとんどママがやっていて、疲れている。パパもやればいいのにと思う。



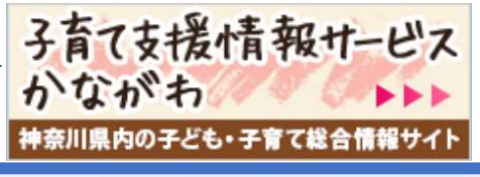
子どもを持ち、家族と旅行等してたくさん思い出作りたいが、仕事と子育てを両立できるか不安。

フィードバック

既に取り組んでいます

県では、子どもがいる人を雇っている会社が、お休みを取りやすくしたり、働く時間を短くしたりした場合、子育てを応援する会社であると県が認め、皆さんに広くお知らせする取組をしています。また、会社で働く人たちが、どうしたらおうちに早く帰れるか、会社のえらい人たちが集まって話し合う会を開いています。(p.138)

＜関連情報＞



既に取り組んでいます

県では、子どものための休暇など、会社が仕事と育児を両立できる職場環境整備を促すために、奨励金を交付しています。また、両立に対する負担や不安感を軽減するための個別カウンセリングや、働き方のノウハウを身につけるためのセミナーも実施しています。(p.139)

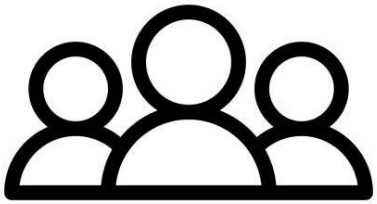
＜関連情報＞

子育て当事者の不安解消のための施策についていただいた意見

いただいた意見

共働き・共育ての推進等

男性も女性並みに育児休業を取得し、一緒に子育てするようになれば、子どもを持つことについて前向きな考えになるのではないか。



母親に育児の負担がいくことが多く、大変そうなので子どもを持つことは考えていない。
小さい子のわがままに付き合える自信がない。

フィードバック

既に取り組んでいます

県では企業等の経営層を対象として、男性の育児休業取得や長時間労働削減に向けた効率的な働き方や柔軟な働き方を促進するセミナーを開催しています。（p.138）
また、男性が育児休業を多く取得できるように、職場環境を整備して、男性従業員が育児休業を取得した会社に奨励金を交付しています。

既に取り組んでいます

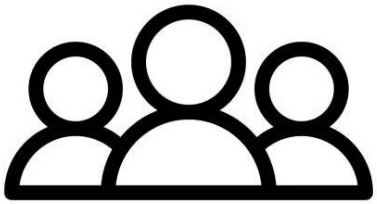
県では企業等の経営層や男性従業員を主な対象として、男性の育児休業取得や長時間労働削減に向けた働き方の見直し、性別役割分担意識の解消などについてのセミナーや講師派遣を行っています。（p.138）

子育て当事者の不安解消のための施策についていただいた意見

いただいた意見

共働き・共育ての推進等

男性も女性並みに育児休業を取得し、一緒に子育てするようになれば、子どもを持つことについて前向きな考えになるのではないか。



大事な日に親が仕事を休めたらいいな

フィードバック

既に取り組んでいます

県では企業等の経営層を対象として、男性の育児休業取得や長時間労働削減に向けた効率的な働き方や柔軟な働き方を促進するセミナーを開催しています。（p.138）

また、男性が育児休業を多く取得できるように、職場環境を整備して、男性従業員が育児休業を取得した会社に奨励金を交付しています。

既に取り組んでいます

県では、子どもがいる人を雇っている会社が、お休みを取りやすくしたり、働く時間を短くしたりした場合、子育てを応援する会社であると県が認め、皆さんに広くお知らせする取組をしています。（p.139）

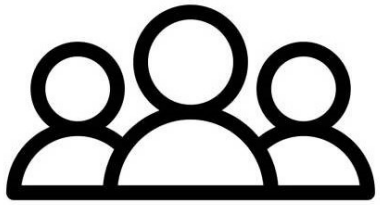
また、卒園式などの学校行事の参加休暇など、特別なお休みのルールを作った会社に、その会社を応援するお金を支給する取組を行っています。

子育て当事者の不安解消のための施策についていただいた意見

いただいた意見

ひとり親家庭への支援

子どもを産むことは責任が伴う。ひとり親で育てるのは子どもにも影響があると思うが、最近は離婚が多いので、子どもを持つことは怖い。



フィードバック

今後、取組を考えるための参考にします。

県では、福祉資金の貸付や児童扶養手当の支給、医療費の助成を行うとともに、自立支援員による生活相談や家庭生活支援員の派遣を行っています。（p.143）

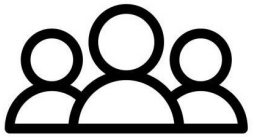
就業・自立支援センターによる就業のための相談やセミナー、パソコン講習会を実施するとともに、自立のための資格取得や講座受講を行う方に対しては給付金を支給しています。（p.140,141）
また、養育費確保のための各種支援を行っています。

子ども・若者を地域でともに育む施策についていただいた意見

いただいた意見

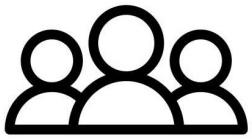
子ども・若者、子育てに関わる人材の確保

障害者支援施設の職員にも、嫌なことやストレスが溜まってしまうことが色々あると思う。職員のメンタルケアが大事である。



子ども・若者、子育てにやさしい社会づくりのため意識改革

20歳以下で子どもを持つと、社会から偏見を持たれることが多いと思うので若い母親に対して、そのような偏見がない社会であって欲しい。



フィードバック

既に取り組んでいます

かながわ労働センターでは「働く人のメンタルヘルス相談」、厚生労働省では「働く人の『こころの耳相談』」を実施していますので、悩みに応じて窓口をご案内していきます。

既に取り組んでいます

県では、協力施設にて「かながわ子育て応援パスポート」を見せると、お得な特典や子育て家　庭にやさしいサービスが受けることができ、子育て家庭を応援する取組を進めております。（p.146）

また、子育てを応援する社会をつくるため「こどもまんなかプロジェクト」を進めており、県内の主要公共機関の車内ビジョン等での動画放映を通じて、社会全体で子ども・子育てにやさしい社会づくりを進めています。（p.146）

子ども・若者を地域でともに育む施策についていただいた意見

いただいた意見

子ども・若者、子育てにやさしい社会づくりのため意識改革

電車賃をもう少し安くしてほしい。

フィードバック

既に取り組んでいます

電車賃はそれぞれの鉄道会社で決められていますが、みなさんに電車を利用してもらえるよう、全区間一律で安い小児運賃を設定したり、休日限定の１日乗車券を販売するなど、会社ごとに工夫されています。

県では、「かながわこどもまんなかアクション」として鉄道会社の取組をまとめていますので、ぜひ見てみてください。

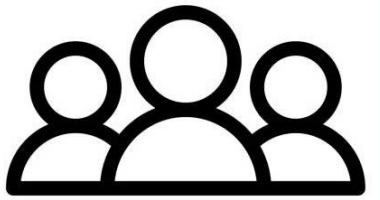
＜関連情報＞

子ども・若者を地域でともに育む施策についていただいた意見

いただいた意見

子ども・若者、子育てにやさしい社会づくりのため意識改革

電車、バスで小さい子が泣いていると周りの視線が冷たい。女性専用車両のように、ベビーカーが乗りやすい、子どもが泣いても安心できるような専用車両が欲しい。



フィードバック

今後、取組を考えるための参考にします。

鉄道会社の中には、既に、車両の一部を「子育て応援車」にしたり、車内の広いスペースを子ども向けに楽しくラッピングするなど、子連れの方を温かく見守る雰囲気づくりに取り組んでいる会社もあります。

一方で、「限られた車両数で、女性専用車両に加えて更に優先車両を作るのは難しい」など、様々な方が利用する鉄道ならではの課題もあるとのことです。

県では、こうした鉄道会社の取組を「かながわこどもまんなかアクション」として発信し、子連れの方を皆で温かく見守る社会の雰囲気づくりを進めていきます。
（p.146）